

# 組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名： 岡山大学病院

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	教育面では、主に次のような成果をあげることができた。
<p>教育面では、病院の理念に掲げている「優れた医療人の育成」の実践として、引き続き学部学生、大学院生、研修医、看護師、医療技術職員等の教育環境、労働環境の改善整備及び増加しているこれらの医療スタッフに対する研修を強化するとともに、連携のとれたチーム医療のための研修を実施してレベルアップを図る。</p>	<p>①文部科学省GPI「看護師の人材養成システムの確立」(平成25年度は最終年)、「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」(平成25年度は最終年)及び「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」(平成25年度は2年目)の取組みにより、高度な医療の提供に貢献できる職員等の教育を体系的、実践的に行い、その中で、各職種ごと或いは職種を超えたチームでの演習・研修会・勉強会を開催しレベルアップを図った。</p> <p>また、平成25年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業に採択され、「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」に取り組むことになり、2月にキックオフシンポジウムを開催した。</p> <p>②教育環境・労働環境改善として、学部学生・研修医に対して、昨年度に引き続き、医療教育統合開発センターとの共同により開発したシミュレーション教育による研修プログラムを効率的に運用するとともに、卒後臨床研修センター医科研修部門では、手薄であった外科系の研修指導体制の整備として外科系の助教を配置し、歯科研修部門では協力型臨床研修施設を3施設増やすなど研修施設の充実を図った。また、医療技術職員等の医療スタッフには満足度調査を実施するなど研修環境の改善策を検討し、共有できるシミュレーターや医療機器を有効に活用し、技術向上を図る体制の整備を進めた。</p> <p>さらに、人員配備の面で働きやすい職場を目指すため、引き続き、職種ごとに配置計画を執行部で検討し、改善を図った。</p> <p>③一昨年度、病院職員の意欲の高揚を図る目的で設置した、病院長が表彰する「楷の木賞」について、本年度も引き続き選考し、個人及び医療チームに授与し、表彰した。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	4月に臨床研究中核病院整備事業として、中国・四国地区で唯一選定され、国の再興戦略に沿った事業を精力的に実施しており、新医療研究開発センターに10月に専任の教授、1月から3月にかけて助教6人を配置するなど体制の強化を図った。現在中国・四国地区におけるネットワーク及び臨床研究メガホスピタルの構築を推進するとともに、日本版NIH構想の中核施設となるべく準備を進めている。
<p>研究面では、新医療研究開発センターを窓口として、本院で実施される臨床研究の質の向上を目的として設置された臨床研究審査委員会を中心に、引き続き臨床研究・橋渡し研究の充実を図るとともに、治験実施の推進を図る。</p>	<p>また、病院では研究倫理体制の見直しを行い、これまで縦断的編成されていた各種倫理委員会を横断的に再編した生命倫理審査委員会を設置し、書式の統一化と生物統計家などの専門家が研究実施計画をブラッシュアップする体制等の整備を図り、平成26年から施行することとした。</p> <p>新医療研究開発センターでは、引き続き、革新的な医療の開発、治験実施の体制強化、臨床研究の審査について効率的な運用を図った。</p> <p>主な取組みとしては、</p> <p>①橋渡し研究部では、REIC(前立腺癌)臨床研究で今までに22名の患者に遺伝子治療が実施されている。一部の症例では臨床的有効性を示唆する所見が得られており、重篤な有害事象は発生していない。また、新たに腫瘍選択的融解ウイルス「テロメライシン」を用いた放射線併用ウイルス療法の臨床研究を12月に開始した。さらに、2月には厚生労働省から、支援を行っていた悪性中皮腫に対するREIC遺伝子治療の臨床研究の実施が承認された。</p> <p>②臨床研究部では、本院で実施される介入を伴う臨床研究について臨床研究審査委員会を機能させ、倫理的及び科学的妥当性、有用性、安全性を中心に審査し、その役割を果たしている。また、臨床研究中核病院としてARO(Academic Research Organization)機能基盤整備に必要な項目について院内各部署との連携を図るとともに、ハード・ソフトの面での整備を進めている。</p> <p>③再生医療部では、4月に承認された機能的単心室症に対する細胞治療は6人の登録完了し、そのうち3症例の移植割り付け群に対して自家細胞移植を実施した。また、新規の疾患特異的iPS細胞を2株樹立し機能解析を行っている。</p> <p>④治験推進部では、引き続き治験の推進と支援を行い、岡山治験ネットワークの管理及び疾患別臨床研究(治験)ネットワークの管理を行った。その実績として、平成25年度は企業治験は新規48件、継続104件を受託し、医師主導治験は、新規3件、継続3件となっている。また、国際共同研究(治験)は新規16件、継続45件を受託した。</p> <p>⑤人材育成部ではPMDA職員との臨床研究中核病院の基盤整備に関する協議を11回にわたって実施して情報交換を行い、本院における薬事教育の充実に資している。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
共同研究件数, 受託研究件数, 受入金額	

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	<社会貢献面>
<p>1. 社会貢献面では、岡山県が構築した地域医療連携システム「晴れやかネット」の運用に積極的に参加するとともに、定着（前方支援及び後方支援連携）と利用施設拡大に関わり、地域の高度医療に対する要請に応える中核医療機関としての機能を果たす。</p> <p>2. 診療面では、引き続き、ロボット手術をはじめとした低侵襲医療や移植医療の拡充などの先進医療を推進し、高度で安心・安全な医療を提供して、「最後の砦」としての大学病院の役目を果たす。また、看護師の安定確保に努力し、医療サービスの向上に努める。</p> <p>3. 運営面では、新中央診療棟Ⅱ期及び既存建物の将来計画について検討を進めるとともに、引き続き、経営力の強化を図るために、経費の節減、適切な設備投資及び安定的な人員増加を図り、持続的な成長を果たす。また、病床稼働率の向上・安定化を図る。</p>	<p>(1) 地域医療連携の機能を充実させるため、病院総合患者支援センターは、統合した患者紹介システムの医科系・歯科系のシステムの試行を開始するとともに、地域医療連携システム「晴れやかネット」の説明会への参加を精力的に働きかけ、約300名の医師及び歯科医師の参加を得ることができ、結果として各診療科あたり1名以上の登録者を確保することができた。併せて、院内電子カルテからの閲覧環境の整備を行った。</p> <p>また、昨年12月に設置した病院口腔検査・診断センターでは、地域医療機関からの各種画像検査依頼の受け入れを開始した。</p> <p>さらに、病院腫瘍センターでは、地域連携クリティカルパスの運用手順の定着や利用推進に関して、5大がん取り扱い診療科で説明会を開催し引き続き協力要請を行ったほか、泌尿器癌などのパスの策定についても岡山県のがん診療連携協議会の中で作業を行っている。</p> <p>(2) 地域の高度医療に対する要請に応える中核医療機関としての機能の充実としては、次のことがあげられる。</p> <p>①4月に、厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業の対象機関に選定され、今後5年間、臨床研究中核病院として小児・稀少疾患難病等疾患別ネットワークを形成し、医師主導治験でなければ実施困難な研究の支援や、国際水準の臨床研究において中心的役割を担うこととなり、具体的には中国・四国地区の基幹病院とのネットワークを活用し200床以上の病院83施設で大規模な臨床研究や治験を迅速に実施し、臨床研究メガホスピタルを目指す。</p> <p>②4月に、がん対策基本法に掲げられている「診断時からの緩和医療」を目的とした緩和支援医療科を設置した。</p> <p>③6月には従来のジェンダーセンターを中央診療施設に格上げした。</p> <p>④7月から、多くの先天性疾患を含む遺伝性疾患で遺伝子レベルの正確な診断を行う遺伝カウンセリングを開始した。また、母体血を用いた出生前遺伝学的検査を開始した。</p> <p>⑤5月に、小児医療センター内に成人とは異なる小児医療の特異な場面での鎮痛鎮静の求めに対応する小児麻酔科を、12月に小児放射線医学グループを中心とした小児放射線科を設置した。</p> <p>⑥平成25年12月に、てんかんの診療に関する総合的な教育・研究の向上と地域医療の充実を目的としたてんかんセンターを設置した。</p> <p>&lt;診療面&gt;</p> <p>病院では、5月に総合診療棟が全面稼働を開始し、最新の医療を提供するため、血管造影装置併設のハイブリッド手術室や、治療中に腫瘍や血管などリアルタイムに映し出せる最先端のCTやMRI、血管撮影装置、手術中にMRI撮影を可能とするオープン型のMRI装置などの最先端の医療機器を使用し、脳神経外科手術をはじめ、心臓血管外科手術、術中MRIを行った手術に活用している。（現在までに脳神経外科8例、心臓血管外科41例を含め70例を実施し、術中MRIを行った手術は脳神経外科で9例実施）</p> <p>また、臓器移植においては、肺、肝臓など、改正臓器移植法の全面施行後の移植を順調に進めており、肺移植では、7月に生体では世界初で、かつ国内最年少の肺移植の事例となった。肺の中葉を母親から3歳児に移植することに成功し、10月には体外臓器リカバリーシステムを使った脳死肺移植を国内で初めて成功させた。さらに12月には第1例目となる心臓移植を実施し、中・四国地区で初めて成功させた。（現在、肺が120例、肝臓322例に達しており、心臓は12月に本院で1例）</p> <p>内視鏡手術ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた医療では、現在前立腺治療、腎切除、胃切除、子宮摘出と治療範囲を拡大し高度な医療を展開している。（現在前立腺治療222例、腎切除10例、胃切除12例、子宮摘出6例）</p> <p>その他、本院の特徴でもある遺伝子治療においては、前立腺がんにおける新規の医療であるREIC遺伝子治療は現在まで22例実施しており、腫瘍選択的融解ウィルス「テロメライシン」を用いた放射線併用ウィルス療法の臨床研究も12月に開始した。</p> <p>&lt;運営面&gt;</p> <p>病院では、病床稼働率、診療費用請求額等の経営指標を迅速に把握して経営戦略会議で報告し、随時に検証や対策を講じている。また、平成24年度に引き続き、MBO（目標管理）の病院長ヒアリングは各診療科に加え各センターも含めて、6～8月実施した。具体的には、稼働率向上のため稼働が低い診療科についてその理由を確認し、対応策を検討するとともに、11月には中間評価を実施し進捗状況や、改善状況の聞き取りを行った。更に2月には診療科等から自己評価を提出させ、執行部会議での検討を経て3月に最終評価を行うこととしており、経営分析と評価体制を充実し病院経営の向上に努めている。</p> <p>平成25年度新たに、診療実績が伸びた診療科等に対してインセンティブ経費を配分することとし、診療現場のモチベーションを高め、更なる増収を図ることを目指すこととした。</p> <p>平成25年度は総合診療棟が完成し、より高度な医療が実施されるようになったことに伴い、医療材料費の支出が急激に伸び、病院経営に圧迫を来したため、医療材料価格交渉チームを設置し、医療材料の価格交渉に重点的に取り組んだ。また、病院経営に影響する病床稼働率の向上にも注力し、病床マネジメントの新しい仕組みとして、病床管理担当者を置き、病棟間の調整等の運用を開始し、4週連続病床稼働率が85%未満の場合に1床、80%未満の場合には2床を「病床マネジメント病床」として当該診療科から拠出させ、病床管理担当者の権限によりその病床を運用するシステムを策定し、稼働率向上への改善の強化を図った。</p> <p>医療材料費は値引き交渉により、年間ベースで約2億7千万円、今年度分では11月使用分から反映するため、約1億円の削減を見込むことができた。病床稼働率は平成25年4月1日から平成26年3月17日までの累計で、87.5%となった。</p> <p>総合診療棟Ⅱ期については、戦略的かつ効率的な運営が行える配置について、執行部において各部署との調整を踏まえて検討し、概ね建物設計が完了した。また、既存の中央診療棟の改修計画を進めており、一部改修工事に着手している。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
医療収入、診療経費、病床稼働率	
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>平成25年度の組織目標の達成状況は、病院全体として非常に優れたものであった。特に、平成25年度に新たに設置したセンターは、岡山県をはじめ地域との連携により円滑な運営が行われており、岡山県の中核を担う拠点病院としての役割を十分果たしていると言える。</p> <p>前立腺がんに対する新規の医療であるREIC遺伝子治療が順調であることに加え、腫瘍選択的融解ウィルス「テロメライシン」を用いた放射線併用ウィルス療法の臨床研究を12月に開始したこと及び悪性中皮腫に対するREIC遺伝子治療の臨床研究の実施が承認されたことがあげられる。また、内視鏡手術ロボット手術、臓器移植手術においては順調に実施されており、内視鏡手術ロボット「ダ・ヴィンチS」は主に前立腺摘出術に使用されているが、治療範囲がさらに拡大されその症例数も順調に伸びている。臓器移植の新たな実績では、肺移植の画期的な薬療や、第1例目となる心臓移植の成功があげられる。これらの高度な手術は、5月に本格稼働を開始した総合診療棟で行っており、整備された体制を最大限に活用し、年間手術件数1万件以上を目標するとともに、本院の特徴でもあるチーム医療をさらに進展させ、「最後の砦」病院の使命を果せるよう努力する。</p> <p>さらに、本年度厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業の対象機関に選定されたことにより、臨床研究中核病院として小児・稀少疾患難病等疾患別ネットワークを形成し、臨床研究において中心的役割を担うこととなった。中国・四国地区の基幹病院とのネットワークを活用し臨床研究メガホスピタルを目指す。</p>	